

平成29(2017)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 : 生命科学部 生命科学科

(1)理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	○学部、学科又は課程ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容 ○大学の理念・目的と学部・学科の目的の連関性	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	・「全学部規程」	各学部、学科において、「教育研究上の目的」を、学部規程に適切に定めている。			
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。					
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。					
		4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。					
2) 大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	○学部、学科又は課程ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示 ○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部等の周知及び公表	5 教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・履修要覧 ・ホームページ	各学部、学科において、「教育研究上の目的」、「履修要覧」及びホームページにて公表している。			
		6 学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。					
		7 受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。					
3) 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を表現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。	○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定	8 大学の理念・目的を踏まえ、各学科における目的等を実現していくため、将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。	・全学部全学科 中長期計画 ・中長期計画フィードバックコメント ・その他()	平成29年度より全学的な方針の下、各学科の中長期計画を策定し、平成35年度までの到達目標とその計画を明確に定めている。 また、学長施策である「教育活動改革支援予算」により、理念目的の実現に向けた教育プログラムの企画と実行を進めている。	A		
		9 各学科の中・長期計画その他の諸施策の計画は適切に実行されているか。実行責任体制及び検証プロセスを明確にし、適切に機能しているか。また、理念・目的等の実現に繋がっているか。	・生命科学部生命科学部中長期計画 ・中長期計画に対するフィードバックについて(29学事発第105号) ・生命科学部学科会議事メモ ・教育・研究活動改革支援予算に係る取組成果報告書	中長期計画は、平成28年7月に作成し、平成29年3月に見直しを行った生命科学部生命科学部中長期計画に基づき適切に実施されている。平成29年6月には中長期計画に対する教学執行部からのフィードバックがなされ、計画実施・推進のための平成30年度予算要求に向けた資料として活用され、理念・目的等の実現に繋がっている。学長施策については、教育・研究活動改革支援予算に係る取組成果報告書を作成し、取組の具体的な内容、実施体制、取組の成果、将来展開等について毎年5月に報告している。			
4) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。		10 学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	・将来構想委員会議事録 ・生命科学部教授会議事録 ・生命科学部教務委員会議事録 ・生命科学部教務委員会議事録 ・生命科学部学科会議事メモ	学部・学科の目的の適切性は、教育目標とポリシー見直しの観点から、将来構想委員会、教授会、教務委員会、学科会議で随時検討し、4年に1回のカリキュラム改訂の際に実施している。	A		
		11 理念・目的の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。	・将来構想委員会議事録 ・生命科学部教授会議事録 ・生命科学部教務委員会議事録 ・生命科学部教務委員会議事録 ・生命科学部学科会議事メモ	理念・目的の適切性を検証するにあたり、学科会議、学部および学科の教務委員会の協力のもと、将来構想委員会で議論する体制を整えており、責任主体・組織、権限、手続が明確化されている。また、将来構想委員会での検討事項は、教授会で随時報告されており、検証プロセスは適切に機能している。	A		

※1.当該項目については、平成23～25年度の自己点検・評価及び平成26年度の認証評価の結果から、大学全体及び各学部・学科の現状には大きな問題がないこと、第3期認証評価の評価項目を踏まえ、点検評価項目の見直しを図ったが、この項目における影響はないと判断し、毎年の自己点検・評価は実施しないこととする。(平成29年9月14日、自己点検・評価活動推進委員会承認)。

(4)教育課程・学習成果

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1)授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識・技能・態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表	12 教育目標を明示しているか。	・「全学部規程」	各学部、学科において、「教育研究上の目的」を学部規程に適切に定めている。	A	※1と同様	
		13 ディプロマ・ポリシーを設定し、かつ公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	・「全学部規程」 ・履修要覧 ・ホームページ	各学部、学科において、ディプロマ・ポリシーを定め、ホームページにて公表している。			
		14 教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	・生命科学部規程 ・履修要覧 ・ホームページ 生命科学科3つのポリシー	生命科学科の教育目標は、以下の通りである「1)生命現象を分子レベル、細胞レベル、個体レベル、さらには地球環境レベルで理解する幅広い知識を修得する。2)「いのち」の不思議さに迫るための生命科学の様々な技術を修得する。3)生命科学の未知の領域に挑戦する論理的かつ独創的な考え方ができる。4)地球社会全体と「いのち」に対する深い生命倫理観を醸成させる。5)国際社会に活躍できるよう、異文化に対する理解や語学力を培う。また、生命科学科のディプロマ・ポリシーは、以下の通りである「(1)生命科学に関する幅広い知識と高い生命倫理観・専門技術者倫理観を身につけている。(2)生命科学の専門的知識と実験技術を駆使して、創造的な研究活動を行う能力を身につけている。(3)様々な課題に対して自主的・主体的に取り組み、論理的な思考を通して解決への筋道を立てる事ができる。(4)プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力に優れ、他者と連携・協調することができる。(5)社会の構成員として必要な教養を身につけ、社会貢献に対する意識とそれを実践するための能力を備えている。」したがって、教育目標とディプロマ・ポリシーは整合している。また、ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されている。			
2)授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を明示し、学科のカリキュラムを構成するうえで重要かつ具体的な方針が示されているか。	16 カリキュラム・ポリシーを設定し、かつ公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	・「全学部規程」 ・履修要覧 ・ホームページ	各学部、学科において、カリキュラム・ポリシーを定め、ホームページにて公表している。	A	※1と同様	
		17 カリキュラム・ポリシーには、教育課程の体系的な教育内容、科目区分、授業形態等を明示し、学科のカリキュラムを構成するうえで重要かつ具体的な方針が示されているか。	・生命科学部規程 ・履修要覧 ・ホームページ 生命科学科3つのポリシー	生命科学科のカリキュラム・ポリシーは、以下の通りである「(1)1年次では、最新の生命科学を学ぶ前提となる基礎的な生物学を修得するために「生物学およびII」、「基礎分子生物学」などの科目を必修科目として配置する。また、生命現象を理解し研究する上で必要な化学知識を修得するために、「基礎化学」、「生命実験化学」などの科目を必修科目として配置する。(2)生物学の基礎となる科目を修得した後、2年次にかけて動物、植物、微生物の各物分野を特徴的な生命現象に対する深い知識を醸成するために生命科学基礎科目群を配置する。また、これら専門分野を深く理解するために必要な基礎科学知識の修得を目的として「有機化学」や「遺伝子工学」などの基礎科学科目群を開講する。(3)3年次以降は、それまでの基礎的な知識を活用して生命科学に関する先端研究の情報や知識の修得、学生の進路決定の支援を目的として、より専門性の高い生命科学科目群を配置する。(4)生命科学の様々な実験手法、論理的な思考・表現を身につけることを目的として「化学実験」、「生物学実験」、「生命科学実験」および「卒業研究」を順次配置し、他の科目群で修得した知識を活用して主体的に研究活動に取り組み能力を養う。(5)幅広い視野を身につけるため、基盤教養科目を配置するとともに、倫理観を養うために「生命倫理」や「生命哲学」などの科目を配置する。また、生命科学の分野で国際的に活躍できる人材育成のために、3年次まで途切れなく英語科目群を配置して継続的なプレゼンテーション力やコミュニケーション力を養うとともに、学生自身の将来のキャリアデザインを促す。」ここには教育課程の体系的な教育内容、科目区分、授業形態等を明示し、教育課程に対する編成方針、実施方針が具体的に明示されている。また、教育目標とディプロマ・ポリシーとも整合している。			
		18 カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	・生命科学部規程 ・履修要覧 ・ホームページ 生命科学科3つのポリシー	生命科学科のカリキュラム・ポリシーは、以下の通りである「(1)1年次では、最新の生命科学を学ぶ前提となる基礎的な生物学を修得するために「生物学およびII」、「基礎分子生物学」などの科目を必修科目として配置する。また、生命現象を理解し研究する上で必要な化学知識を修得するために、「基礎化学」、「生命実験化学」などの科目を必修科目として配置する。(2)生物学の基礎となる科目を修得した後、2年次にかけて動物、植物、微生物の各物分野を特徴的な生命現象に対する深い知識を醸成するために生命科学基礎科目群を配置する。また、これら専門分野を深く理解するために必要な基礎科学知識の修得を目的として「有機化学」や「遺伝子工学」などの基礎科学科目群を開講する。(3)3年次以降は、それまでの基礎的な知識を活用して生命科学に関する先端研究の情報や知識の修得、学生の進路決定の支援を目的として、より専門性の高い生命科学科目群を配置する。(4)生命科学の様々な実験手法、論理的な思考・表現を身につけることを目的として「化学実験」、「生物学実験」、「生命科学実験」および「卒業研究」を順次配置し、他の科目群で修得した知識を活用して主体的に研究活動に取り組み能力を養う。(5)幅広い視野を身につけるため、基盤教養科目を配置するとともに、倫理観を養うために「生命倫理」や「生命哲学」などの科目を配置する。また、生命科学の分野で国際的に活躍できる人材育成のために、3年次まで途切れなく英語科目群を配置して継続的なプレゼンテーション力やコミュニケーション力を養うとともに、学生自身の将来のキャリアデザインを促す。」ここには教育課程の体系的な教育内容、科目区分、授業形態等を明示し、教育課程に対する編成方針、実施方針が具体的に明示されている。また、教育目標とディプロマ・ポリシーとも整合している。			
3)教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	○各学部において適切に教育課程を編成するための措置 ・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性 ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系的な配慮 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目内容及び方法 ・授業科目の位置づけ(必修、選択等) ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定 (<small>＜</small> 学士課程 <small>></small> 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等)	19 教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	・授業時間割表 ・履修要覧 ・ホームページ ・教育課程表	授業科目の難易度、順次性に配慮して配当学年を設定し、各年次に体系的に配置している。すべての授業科目は科目ナンバリングで関係づけられている。入学から卒業までの教育課程の流れは「カリキュラムマップ」として視覚的に分かりやすく明示している。また、各授業科目の単位数及び時間数は、大学設置基準及び学則に則り適切に設定されている。ディプロマ・ポリシーである、「生命科学に関する幅広い知識と高い生命倫理観・専門技術者倫理観」を身につける上で最低限必要な授業科目を「必修科目」とし、その上で「生命科学の専門的知識と実験技術を駆使して、創造的な研究活動を行う能力」を身につける上で必要となる専門科目を「選択必修科目」や「選択科目」としてバランスよく配置している。	A		
		20 各授業科目の単位数及び時間数は、大学設置基準及び学則に則り適切に設定されているか。	・授業時間割表 ・履修要覧 ・ホームページ ・教育課程表	・大学の専門教育への導入を目的とした初年次教育として、1年次に「ライフサイエンス基礎」、「ライフサイエンス基礎II」、「ライフサイエンス基礎III」(旧カリキュラム履修者のみ)を配置している。また専門科目の導入科目として「化学や生物学の基礎知識を学修するための「基礎化学」、「生物学I」(旧基礎生物学)」等の専門必修科目を配置している。・教養教育、専門教育の位置づけは、科目ナンバリング、教育課程表の中で明示している。また、基盤教育科目、専門必修科目及び選択必修科目の卒業、履修の要件は適切かつバランスよく設定されている。特に選択必修科目は、基礎科学、生命科学基礎、生命科学に分類され、基礎科目から専門性の高い科目までを多分野にわたってバランスよく履修できるように配慮されている。			
		21 授業科目の位置づけ(必修、選択等)に極端な偏りなく、教育目標等を達成するうえで必要な授業科目がバランスよく編成されているか。	・授業時間割表 ・履修要覧 ・科目シラバス ・ホームページ ・教育課程表	・大学の専門教育への導入を目的とした初年次教育として、1年次に「ライフサイエンス基礎」、「ライフサイエンス基礎II」、「ライフサイエンス基礎III」(旧カリキュラム履修者のみ)を配置している。また専門科目の導入科目として「化学や生物学の基礎知識を学修するための「基礎化学」、「生物学I」(旧基礎生物学)」等の専門必修科目を配置している。・教養教育、専門教育の位置づけは、科目ナンバリング、教育課程表の中で明示している。また、基盤教育科目、専門必修科目及び選択必修科目の卒業、履修の要件は適切かつバランスよく設定されている。特に選択必修科目は、基礎科学、生命科学基礎、生命科学に分類され、基礎科目から専門性の高い科目までを多分野にわたってバランスよく履修できるように配慮されている。			
		22 専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	・履修要覧 ・教育課程表 ・ホームページ ・生命科学科研究所見学報告書	・社会的及び職業的自立を図るためのキャリア教育として、基盤教育科目として、年次に「キャリアデザインⅠ」、2年次に「キャリアデザインⅡ」を配置している。また、群馬県の協力のもと、基盤教育科目の共通教養科目に「産官学連携概論」を開講している。3年生を対象として、企業や公的研究機関の協力のもと、専門科目として「実務研修」を実施している。			
		23 教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。卒業、履修の要件は適切にバランスよく設定されているか。	・履修要覧 ・教育課程表 ・ホームページ ・生命科学科研究所見学報告書	・社会的及び職業的自立を図るためのキャリア教育として、基盤教育科目として、年次に「キャリアデザインⅠ」、2年次に「キャリアデザインⅡ」を配置している。また、群馬県の協力のもと、基盤教育科目の共通教養科目に「産官学連携概論」を開講している。3年生を対象として、企業や公的研究機関の協力のもと、専門科目として「実務研修」を実施している。			
		24 カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	・履修要覧 ・教育課程表 ・ホームページ ・生命科学科研究所見学報告書	・社会的及び職業的自立を図るためのキャリア教育として、基盤教育科目として、年次に「キャリアデザインⅠ」、2年次に「キャリアデザインⅡ」を配置している。また、群馬県の協力のもと、基盤教育科目の共通教養科目に「産官学連携概論」を開講している。3年生を対象として、企業や公的研究機関の協力のもと、専門科目として「実務研修」を実施している。			
4)教育目標、学位授与方針及び教育課程編成実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。	○学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施	25 学科の人材養成の目的に即した、社会的及び職業的自立を図るために、キャリア教育等必要な教育を正課内に適切に配置しているか。また必要な正課外教育が適切に施されているか。	・履修要覧 ・教育課程表 ・ホームページ ・生命科学科研究所見学報告書	・社会的及び職業的自立を図るためのキャリア教育として、基盤教育科目として、年次に「キャリアデザインⅠ」、2年次に「キャリアデザインⅡ」を配置している。また、群馬県の協力のもと、基盤教育科目の共通教養科目に「産官学連携概論」を開講している。3年生を対象として、企業や公的研究機関の協力のもと、専門科目として「実務研修」を実施している。	A		
		26 教育目標に照らした諸資格の取得、その他必要な知識・技能を測る試験の受験に係る指導や支援環境が整っているか。	・履修要覧 ・教育課程表 ・ホームページ ・生命科学科研究所見学報告書	・生命科学科では正課外教育として、研究開発職の就業イメージを醸成するため、2年生を対象として、国立研究開発法人等への研究所見学(バスツアー)を実施している。 ・所定の科目を取得することで「教員職員免許状」と「食品衛生管理者および食品衛生監視員」の任用資格の取得ができる。また、「危険物取扱者(甲種)」と「バイオ技術者認定試験(上級・中級)」の受験資格が得られる。			
		27 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力の育成に向けて、学科内の学生への指導体制は適切であるか。また、学内の関係組織等の連携体制は明確に教職員で共有され、機能しているか。	・履修要覧 ・ホームページ	・社会的及び職業的自立を図るために必要な能力の育成に向けて、正課科目として「キャリアデザインⅠ及びⅡ」、「実務研修」を配置している。1～2年次は、様々な業種に関する資料収集・活用方法や、プレゼンテーション・議論の方法を学び、3年次はインターンシップ(実務研修)を通じて将来の進路や職業適性を考え、社会のニーズに対応する能力の習得を促している。また適宜、企業人や学部卒業生の講演を通じて就職や進学への意識づけを行っている。「実務研修」後に報告会を実施し、その成果について教職員で共有されている。			
4)教育目標、学位授与方針及び教育課程編成実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。	○教育目標、学位授与方針およびカリキュラム・ポリシーの適切性を定期的に検証しているか。	28 教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を定期的に検証しているか。	なし	4年に1回のカリキュラム改訂の際に、各学部・学科の教育研究上の目的及び3つのポリシーを見直している。	A		
		29 教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を検証するにあたり、責任主体・組織・権限・手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善に繋げているか。	・将来構想委員会議事録 ・生命科学部教授会議事録 ・生命科学部教務委員会議事録 ・生命科学科教務委員会議事録 ・生命科学科学科会議事録	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性の検証については、学科会議、教務委員会等との協力のもと、将来構想委員会でも議論する体制を整え、責任主体・組織・権限・手続を明確にしている。また、将来構想委員会での検討事項は教授会で随時報告されており、検証プロセスは適切に機能させ、改善に繋げている。			

(4)教育課程・学習成果

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期	
5) 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	<p>○各学部において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置</p> <p>・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置(1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等)</p> <p>・シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)及び実施(授業内容及びシラバスとの整合性の確保等)</p> <p>・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法</p> <p>< 学士課程 ></p> <p>・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数</p> <p>・適切な履修指導の実施</p>	30	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学生等も含む)。	・履修要覧	全学部・学科において、1年間の履修登録科目の上限を、50単位未満に設定し、学部規程に規定している(卒業要件外の科目を除く)。	※1と同様		
		31	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・シラバスの作成依頼 ・シラバスの点検資料、点検結果報告書 ・「授業評価アンケート」資料	シラバスについては、毎年、学長及び教務部長の連名においてシラバス作成の際の必須事項、留意事項を明示するとともに、各学部による全科目のシラバス点検を実施し、必須事項の明示や内容の充実に向けて取り組んでいる。また全学統一の授業評価アンケートにおいて、「シラバスに即した内容の授業が行われていたと思いますか」という設問を用意し、授業内容・方法及びシラバスとの整合性を確認している。			
		32	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。					
		33	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、施設・設備の利用など)を行っているか。	・履修要覧 ・ホームページ	<p>・ビクトリア大学との連携による海外語学研修をはじめ、各種語学教育を企画しており、学生の英語学習の活性化と語学力向上を図っている。</p> <p>・年4、5回程度、学外の研究所や工場施設などの見学会を企画しており、2年次を中心に希望する学生を募ってバスツアーを実施しており、研究者や技術者という職業イメージを持つことを促進するための配慮を行っている。</p> <p>・夏季休暇期間を利用した学外実習(1年次)、実務研修(3年次)により、他大学の公開臨海実習、企業や公的研究施設での技術体験を行っており、これらの活動を通じて本学の授業では経験できない海洋生物に関する知識、社会における物事の捉え方などを修得する。</p> <p>・胚培養士を志す学生を対象として、ヒトの胚発生についての座学を受講した後、聖マリアンナ医科大学の生殖医療センターにて見学会および実習を実施している。</p> <p>・校内の共通設備である電子顕微鏡や質量分析計などの説明会および実習を定期的に行い、学生の技術修得に役立てている。</p>	A		
		34	履修指導の機会、オフィスアワーなど、学生が学修に係る相談を受けやすい環境が整っているか。また、その指導体制は適切であるか。	・履修要覧 教員紹介 ・ToyoNet-G	担任制により入学から卒業までトータルなサポート、学生一人ひとりの大切な学修状況や生活情報を学生情報管理システムによって管理している。各教員は、学生の質問や相談に対して日常的に時間の許す限り、いつでも対応するように努めているが、学生の便宜を一番はかるために、オフィスアワーの時間を設定し、それを学生に周知し、学生が学修に係る相談を受けやすい環境を整えている。	A		
35	学生の学習を活性化し、教育の質的転換を実現するために、学科が主体的かつ組織的に取り組んでいるか。	・履修要覧	今年度の入学より、入学時に受験したTOEIC IPテストのスコアが500点以上である、または入学時のスコアよりも100点アップすることを卒業研究着手の条件としている。この条件に満たない学生については、学科で設定したポイント制英語プログラムへの参加により、100点以上のポイントを獲得したのみ卒業研究着手できる制度となっている。これにより、学生の英語学習の活性化と質的転換を図っている。	A				
36	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	・履修要覧 ・ホームページ ・教育課程表	生命科学科の教育課程は、カリキュラム・ポリシーに則り科目の配置等が行われ、学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。また、学士課程教育として、初年次教育や導入教育を実施し、学士力や社会人基礎力を養成するものになっている。					
6) 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	<p>○成績評価及び単位認定を適切に行うための措置</p> <p>・単位制度の趣旨に基づく単位認定</p> <p>・既修得単位の適切な認定</p> <p>・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置</p> <p>・卒業・修了要件の明示</p> <p>・学位授与に係る責任体制及び手続の明示</p> <p>・適切な学位授与</p>	37	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。		シラバスについては、毎年、学長及び教務部長の連名においてシラバス作成の際の必須事項、留意事項を明示するとともに、各学部によるシラバス点検を実施し、必須事項の明示や内容の充実に向けて取り組んでいる。また全学統一の授業評価アンケートにおいて、「シラバスに即した内容の授業が行われていたと思いますか」という設問を用意し、授業内容・方法及びシラバスとの整合性を確認している。	※1と同様		
		38	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	・東洋大学学則	学則において60単位まで認定できることを定めており、各学部教授会で審議の上で単位認定を行っている。			
		39	成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置を取っているか。	・履修要覧	成績評価は平常試験や学期末試験によって行い、客観性、厳格性を担保するために、GPA制度を導入している。	A		
		40	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知うる状態にしているか。	・履修要覧	卒業要件は、学部規程に規定し、履修要覧にて全学生に明示している。また、新入生には履修ガイダンスと併せて、履修指導を行っており、卒業要件については十分に説明している。		※1と同様	
		41	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	・履修要覧 ・ホームページ ・教育課程表	<p>・生命科学科では、基盤教育科目で哲学・思想、学問の基礎それぞれ4単位以上および外国語系必修科目6単位を含む24単位以上、専門科目で必修52単位、選択必修28単位を含め90単位以上、さらにその他の科目を含めて合計124単位を習得することを卒業要件としており、これらの科目を習得することで、ディプロマ・ポリシーに掲げた「生命科学に関する幅広い知識と高い生命倫理観・専門技術者倫理観」、「生命科学の専門知識と実験技術を駆使した創造的な研究活動を行う能力」、「様々な課題に対して自主的・主体的に取り組み、論理的な思考を通して解決への筋道を立案できる能力」および「プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力」と「社員の構成員として必要な教養」を身につけて社会貢献に対する意識と実践するための能力を身につけることができるものになっている。</p> <p>・学位授与については、ディプロマ・ポリシーに則り、学部学科内で審議を行うことで明確な責任体制のもとで実施している。</p>	A		
42	学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。							

(4)教育課程・学習成果

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期	
7)学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	<p>○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定</p> <p>○学習成果を把握及び評価するための方法の開発</p> <p>《学習成果の測定方法例》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 	43	<p>【学科/学位レベル】</p> <p>各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するために、学科として、学習成果を測るための評価指標(評価方法)を開発・運用しているか。</p>	<p>・東洋大学卒業生アンケート</p>	<p>1年次と3年次にプロジェクトを実施しており、学生の学習能力や適応力などの傾向を把握し、学科内で共有している。学生は自分の適性を客観視し自己評価するための材料として活用できるようになっている。</p> <p>学生の学習成果の測定は、各授業の到達目標を基準として各担当教員に一任されており、現時点では学科として学習成果を測るための評価指標(評価方法)を開発・運用していない。また、卒業後の就職率や就職先の取りまとめ、および卒業時アンケートの実施を行っているが、学科としてそれに対する評価やアンケート結果の分析などは行っていない。</p>	B	<p>学科として学習成果を測るための評価指標を開発・運用する方針について学科内で検討する。また、卒業時に実施しているアンケート結果を分析し、教育環境の改善策を検討する。</p>	<p>新カリキュラム開始時までの改善を目標とする。</p>
		44	<p>学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施し、かつ活用しているか。</p>					
8)教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	<p>○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価</p> <p>・学習成果の測定結果の適切な活用</p> <p>○点検・評価結果に基づく改善・向上</p>	45	<p>カリキュラム(教育課程・教育方法)の適切性を検証するために、定期的に点検・評価を実施しているか。また、何に基づき(資料、情報などの根拠)点検・評価しているか。</p>	<p>・シラバス</p> <p>・「授業評価アンケートについて」</p> <p>・「授業評価アンケート結果」</p> <p>・「授業評価アンケート結果に対する改善案の提出について」</p> <p>・学科会議議事録</p>	<p>・カリキュラムは4年に1回の頻度で見直している。また、授業科目のシラバスは毎年度教員間で互いにチェックすることで、その適正性を客観的に点検・評価している。</p> <p>・学期ごとに各授業科目の授業評価アンケートをWeb上で実施している。教員はその結果をもとに自己評価することにより、次年度の授業の改善に活用している。</p> <p>・学生の英語力向上のため、生命科学科独自の英語ポイントを設定し、一定ポイント以上の獲得を卒業研究に着手する要件としている。英語ポイントの設定については、学生のTOEICの結果等に基づき、英語ポイントの見直しを行っている。</p>	A	<p>・関連する科目の教員間で講義内容と教科書について、学生の理解度を加味して次年度前に協議し決定する。</p> <p>・次年度の英語ポイントの妥当性等について学科会議で議論し、改善案を作成する。</p>	<p>・講義内容と教科書はシラバス作成時までに決定する。</p> <p>・新学期前までに改善し、新学期的ガイダンス時に学生に周知する。</p>
		46	<p>上記の点検・評価結果をカリキュラムの改善に役立てているか。(また、どのように役立てているか。具体例をもとに記載してください)</p>					
		47	<p>授業内容・方法の工夫、改善に向けて、学内(高等教育推進センター)、学外のFDに係る研修会や機関などの取り組みを活用し、組織的かつ積極的に取り組んでいるか。</p>					

(5)学生の受け入れ

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表 ○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	48 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・ホームページ	各学部、学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。	A	※1と同様	
		49 アドミッション・ポリシーには、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示しているか。	・生命科学部規定 ・履修要覧 ・ホームページ	「(1)科学全般、特に生命科学に興味を持ち、高等学校で履修した科目について教科書レベルの知識を有している。(2)自分の考えをまとめ、他者に対してわかりやすく説明することができる。(3)自ら設定した目標を達成するための強い意志を有している。(4)生物・健康・環境などに関する問題に関心を持ち、解決に向けた活動、研究をおとて社会に貢献したいと考えている。(5)積極的に新しい分野を開拓したいという意欲と創造力を有している。」という生命科学科のアドミッション・ポリシーは、「生命科学の知識や技術、思考を活かして国内外で活躍できる人材、生命科学の発展に寄与する研究者や技術者を育成する」という学部、学科の目的、教育内容を踏まえた内容となっており、修得しておくべき知識の内容、水準等が明示されている。			
		50 受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・ホームページ	全学部・全学科において、大学ホームページにて公表している。			
2) 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定 ○入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備 ○公正な入学者選抜の実施 ○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施	51 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	・入試システムガイド ・ホームページ (東洋大学入試情報サイト) ・全学入試委員会規程 ・生命科学部教授会規程	各入試方式とも、募集人員、選考方法を、「入試システムガイド」にて受験生に明示している。一般入試では、上記のアドミッション・ポリシーに加えて、「広範囲の学問領域に対して柔軟かつ広角的な思考力を有する人材を受け入れる」という方針に則り、理系・文系にとらわれない形での複数の選抜試験を実施し、また、推薦入試においてもアドミッション・ポリシーに加えて、学習意欲並びに明確な目的意識を持ち、コミュニケーション能力や倫理観を有する人物を採用するという方針に則り、小論文及び面接を課す試験方法を設定している。	A	※1と同様	
		52 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。					
		53 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	・入学試験実施本部体制	学長を本部長とした「東洋大学入学試験実施本部」の下、「入学試験実施管理本部」等の体制を構築して入学試験を適切に実施している。			
		54 学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。また責任所在を明確にしているか。	学長を本部長とした「東洋大学入学試験実施本部」の下、「入学試験実施管理本部」等の体制において、障がいのある受験生からの申告を受けられる環境を整えており、その後受験時には、障がいの状況に応じた試験環境(時間延長、支援者の介添、点字対応、特別試験教室の用意など)を整えるなど、公平な受験機会を確保している。				
		55 入学者選抜を行ううえで、障がいのある受験生に対し、障がいのない学生と公平に判定するための機会を提供しているか。					
3) 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理 <学士課程> ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応	56 学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。	定員管理については、平成27年度より収容定員の見直しを行い、適切な規模に応じて各学部・学科の定員を改正するとともに、毎年の入学者数の策定においては、過年度データ等を活用しながら、受入者数の適正化に努めている。		A	※1と同様	
		57 学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。					
		58 編入学定員を設けている場合、編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。					
		59 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。					
		60 定員超過または未充足について、原因調査と改善方針の立案を行っているか。					
		61 アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。					
4) 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	62 学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・なし	年間を通して入試部が現状を分析し、翌年度入試に向けた検討事項を各学部提案している。これに基づき、各学部入試委員会を中心とした各学部入試委員会で検討を行い、その検討結果を集約した上で、学長ならびに各学部長を主たる構成員とする全学入試委員会で年2回の検討・決定を行っており、定期的な検証を行っている。	A	※1と同様	
		63 学生の受け入れの適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・将来構想委員会議事録 ・生命科学部教授会議事録 ・生命科学部教務委員会議事録 ・生命科学科教務委員会議事録 ・生命科学科学科会議事録	学生の受け入れの適切性の検証については、学科会議、教務委員会等との協力のもと、将来構想委員会で議論する体制を整えている。また、将来構想委員会での検討事項は教授会で随時報告されており、検証プロセスは適切に機能している。 平成30年度の入試では、受験機会の複数化を図るという入試部からの方針に従い、センター前期ベスト2方式入試を廃止し、新たにセンター前期3教科理科重視型入試及び一般前期3教科型理科重視型入試を導入した。それらに従って、各入試方式の受け入れ人数を修正した。			

(6)教員・教員組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期	
1)大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	○大学として求める教員像の設定 ○各学位課程における専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等 ○各学部等の教員組織の編制に関する方針 (各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等)の適切な明示	64 教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・「教員採用の基本方針」 ・「教員資格審査基準」	全学の「教員採用の基本方針」及び「教員資格審査基準」を定めるとともに、各学部で、学長との協議の上、内規等を定めて基準を明確にしている。	A	※1と同様		
		65 組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・なし	全学委員会のほか、学部内に各種委員会を設置して、組織的な連携体制と、責任の所在を明確にしている。				
		66 学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	・将来構想委員会議事録 ・生命科学部教授会議事録 ・生命科学科学科会議事録 ・東洋大学生命科学部教員資格審査委員会細則 ・板倉キャンパス全学及び学部内委員一覧	教員組織の編成についての規定や方針は生命科学科として定めていないが、必要に応じて東洋大学生命科学部教員資格審査委員会細則等をもとに、学科会議、教員資格審査委員会等で専任教員教員、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などの採用方針を議論し、学科の目的に沿った教員組織が編成されるよう調整を図っている。各教員の役割、教員間の連携のあり方、教育研究に係る責任所在については、板倉キャンパス全学及び学部内委員一覧を毎年作成し、必要に応じて適宜更新している。	B	将来構想委員会、教務委員会、生命科学部教授会及び生命科学科学科会議にて、教員編成の編成方針の策定と明文化に向けた検討を行う。	新カリキュラム開始時より改善を目標とする。	
		67 学部、各学科の個性、特色を発揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。						
		68 各教員の役割、教員間の連携のあり方、教育研究に係る責任所在について、規程や方針等で明確にされているか。						
2)教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	○大学全体及び学部等ごとの専任教員数 ○適切な教員組織編制のための措置 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授又は助教)の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置 ○学士課程における教養教育の運営体制	69 学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充)を充足しているか。	・教員組織表	充足結果については、学長と各学部長による「教員人事ヒアリング」を実施し、学部より学長に報告を行っている。	A	※1と同様		
		70 学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	・大学基礎データ ・将来構想委員会議事録 ・生命科学部教務委員会議事録 ・生命科学科学科教務委員会議事録 ・生命科学科学科会議事録	生命科学科の専任教員の半数は教授となっている。また、生命科学科教員の各年代の比率は、～30歳：0%、31～40歳：11.8%、41～50歳：35.3%、51～60歳：52.9%、61歳以上：5.9%となっており、著しい偏りがある。				B
		71 学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。						
		72 教員組織の編成方針に則って教員組織が編成されているか。						
		73 専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・なし	専任・非常勤を問わず、資格審査委員会及び教授会の審議の際には、担当予定科目を明示した上で担当予定科目に関連する教歴、研究業績を基に審査することを前提としている。				
3)教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	○教員の職位(教授、准教授、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続の設定と規程の整備 ○規程に沿った教員の募集、採用、昇任等の実施	74 教員の募集・採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	・「職員の任免及び職務規則」 ・「教員資格審査委員会規程」 ・「教員人事補充事務手続き概略フロー」 ・「大学専任教員採用の理事長面接の流れ」	「職員の任免及び職務規則」及び「教員資格審査委員会規程」に手続きは明確にされている。また、プロセスについても「教員人事補充事務手続き概略フロー」及び「大学専任教員採用の理事長面接の流れ」に明示されている。毎年度末に、学長と各学部長による「教員人事ヒアリング」を実施し、当該年度の結果と次年度以降の計画を確認することで、各学部の人事が、適切に行われるようにしている。	A	※1と同様		
		75 教員の募集・採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。						
4)ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	○ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動の組織的な実施 ○教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価とその結果の活用	76 研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	・新任教員事前研修資料 ・学外FD関連研修会案内 ・海外・国内特別研究員規程、件数 ・教員活動評価資料	高等教育推進センター主催による新任教員に対する研修会の実施や、専任教員の学外研修会への参加支援、また海外・国内の特別研究制度により、教員の資質の向上を図るとともに、平成28年度より「教員活動評価」制度を導入し、教員の教育・研究活動を中心とした自己点検・評価を実施している。	A			
		77 教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。						
		78 教員活動評価等、教員の教育・研究・社会貢献活動の検証結果を有効に活用し、教員組織の活性化に繋げているか。	・教員活動評価資料 ・ホームページ	教員活動評価の概要資料は生命科学部教授会で共有し、教員組織の活性化を図った。また、教員の教育・研究・社会貢献活動等については、生命科学科Webサイトのニュースに随時掲載して広く発信することで、教員組織の活性化に繋がった。				
5)教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・生命科学部教授会議事録 ・生命科学科学科会議事録 ・資格審査委員会フロー図	教員組織の編成についての規定や方針は生命科学科として定めていないが、教員編成に関わる各委員会での検討事項は、教授会で随時報告される体制を整えており、検証プロセスは適切に機能している。平成29年度の教員採用に伴い、資格審査委員会と教授会での審議・承認プロセスを確認するためのフロー図を作成し、教員に周知した。	B		当該要件に係る内規や方針の明文化については、将来構想委員会、教務委員会、生命科学部教授会及び生命科学科学科会議にて、教員編成の編成方針の策定と明文化に向けた検討を行う。	新カリキュラムに合わせた運用開始を目標とする。

(11)その他

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	80	教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	・履修要覧 ・教育課程表	哲学教育の推進のため、「基盤教育科目」に必修分野として「哲学・思想」区分を設け、その中に「井上円了と東洋大学」、「哲学入門」のほか、「生命論」、「生命倫理」、「生命哲学」という科目を配している。また、「専門科目」の選択科目として「技術倫理」を配置している。	A		
	国際化	81	教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	・履修要覧 ・教育課程表 ・ホームページ ・LEAP/SCATプログラムスケジュール ・生命科学部教授会資料	新1年生は新入時に「TOEIC IP テスト」を受験し、4年間の英語学習の伸長を測る基礎資料とすると共に、そこから教育課程内に用意されている「Integral English I/II/III/IV」、「English Communication I/II」といった必修科目、および「Applied English I/II」や「TOEIC Foundation」といった選択科目をもって英語教育を展開している。こうした英語科目の大半は英語によって授業が進められているが、英語以外の科目においても英語による授業への転換が進められている。また学生の留学機会の充実のために、学術用途の「アカデミック・イングリッシュ」を学ぶ講義を6科目展開するとともに、教育課程外の活動として、英語のプレゼンテーション能力を磨く「Lunchtime talk」セッション、外国人講師による「キャンパス英会話講座」、「TOEIC集中講座」といった、全学年を対象とする教育機会を提供している。また、カナダのヴィクトリア大学への短期留学(4週間)を継続実施している。加えて、大学が主催する「TGLキャンプ」や「全学対象スピーチコンテスト」などに対し、積極的な参加を進めている。大学ではこうした課程外の取組参加学生に「TGポイント」を付与してモチベーションの高揚を図っているが、本学部はそれに連動する形で独自の「生命科学科オリジナルポイント」制度を設け、学生のやる気の一層の強化に努めている。こうした英語教育以外にも、「中国語 I/II」、「ハンブル I/II」、「フランス語 I/II」、「スペイン語 I/II」を開講することにより、異文化間コミュニケーション能力の向上に努めている。また留学生の学習支援の一環として、「日本語 I/II」、「日本語と日本社会」、「日本語と日本文化」といった科目を開講している。なお、本学部は大学が提案する海外協定校との「ダブル・ディグリー・プログラム」規程を承認し、そうした方面にも国際化を拡張しつつある。	S	理系学部・学科ではあるが英語を筆頭とする語学教育にはかなりの資源や労力を投入してきた。今後も質と量の拡充に継続的に取組む。また今後は、海外協定校との「ダブル・ディグリー・プログラム」のスタートもにらんで、留学生にとって魅力ある学部・学科づくりを目指し、留学生の受け入れ体制の拡充に着手していきたい。	年間を通じて取組む。
	キャリア教育	82	教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	・就職支援セミナー案内 ・業界研究セミナー案内 ・工場見学バスツアー案内	板倉キャンパス・キャリア委員会を中心として、学部生・院生向けの『就職支援セミナー』、『業界研究セミナー』、『工場見学バスツアー』を実施している。これらのセミナー等の案内を、掲示等で周知している。	A	学生への各種キャリア関係イベントの周知方法の改善が必要である。具体的には、指導教員を通じたメール配信を実施する。	
2) 学部・学科独自の評価項目①	(独自に設定してください)	83	他大学や公的研究開発機関などとの連携をもとに教育活動を推進しているか。	・履修要覧 ・教育課程表 ・ホームページ ・生命科学科研究所見学報告書 ・生命科学科科学外実習報告書	研究開発職の就業イメージを醸成するため、2年生を対象として、国立研究開発法人等への研究所見学(クワーカー)を生命科学科独自で実施している。また、国内の他大学との連携のもと、生物を対象とした公開臨海実習等に参加できる「学外実習」を導入し、実習修了者に単位認定を行っている。	S		

平成29(2017)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 : 生命科学部 応用生物科学科

(1) 理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	○学部、学科又は課程ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容 ○大学の理念・目的と学部・学科の目的の連関性	※ 1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	「全学部規程」	各学部、学科において、「教育研究上の目的」を、学部規程に適切に定めている。			
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的（教育基本法、学校教育法参照）と整合しているか。					
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。					
		4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。					
2) 大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	○学部、学科又は課程ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示 ○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部等の目的等の周知及び公表	5 教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・履修要覧 ・ホームページ	各学部・学科において、「教育研究上の目的」、「履修要覧」及びホームページにて公表している。			
		6 学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。					
		7 受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。					
3) 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現しているため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。	○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定	8 大学の理念・目的を踏まえ、各学科における目的等を実現しているため、将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。	・全学部全学科 中長期計画 ・中長期計画フィードバックコメント ・その他（ ）	平成29年度より全学的な方針の下、各学科の中長期計画を策定し、平成35年度までの到達目標とその計画を明確に定めている。 また、学長施策である「教育活動改革支援予算」により、理念・目的の実現に向けた教育プログラムの企画と実行を進めている。			
		9 各学科の中・長期計画その他の諸施策の計画は適切に実行されているか。実行責任体制及び検証プロセスを明確にし、適切に機能しているか。また、理念・目的等の実現に繋がっているか。	・生命科学部 教授会議事録 ・応用生物科学科 中長期計画 ・応用生物科学科 学科会議事メモ	・教育研究および組織の整備は、新カリキュラムの検証作業を含め、適切に実行している。TGD構想についても、国際交流推進委員会、板倉キャンパス外国語教育委員会を中心に着実に実行されている。ホリシーの見直しについては学科会議で随時議論を行っており、能動的な学習推進についても来年度に向けた準備が整っている。社会貢献活動・高大接続も実施されている。その他、学長施策も効果的に実施されており、全体として大学および学部の理念・目的等の実現に繋がってきている。一方、学生カルテの共有システム構築については、さらなる議論が必要な状況である。			
4) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。		10 学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	・応用生物科学科 学科会議事メモ	学科の目的の適切性は、教育目標とポリシー見直しの観点から、毎年、定期的に学科会議において議論を行っている。	S		
		11 理念・目的の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。	・生命科学部 教授会議事録 ・応用生物科学科 学科会議事メモ	理念・目的の適切性の検証について、責任主体となる各委員会など明確にされており、権限や手続についても明らかとなっている。また各委員会の活動は、随時、教授会・学科会議で報告がなされ、改善案などについて活発な検証・議論が行われている。	S		

※1.当該項目については、平成23～25年度の自己点検・評価及び平成26年度の認証評価の結果から、大学全体及び各学部・学科の現状には大きな問題がないことと、第3期認証評価の評価項目を踏まえ、点検評価項目の見直しを図ったが、この項目における影響はないと判断し、毎年の自己点検・評価は実施しないこととする。（平成29年9月14日、自己点検・評価活動推進委員会承認）。

(4)教育課程・学習成果

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期
1)授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表	12 教育目標を明示しているか。	「全学部規程」 (http://www.toyo.ac.jp/site/dabs/)	各学部、学科において、「教育研究上の目的」を学部規程に適切に定めている。	A	※1と同様	
		13 デイプロマ・ポリシーを設定し、かつ公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	「全学部規程」 ・履修要覧 ・ホームページ	各学部、学科において、ディプロマ・ポリシーを定め、ホームページにて公表している。			
		14 教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	・応用生物科学科 教育目標 『2017履修要覧』 p.43 教育上の目的 『2017履修要覧』 p.44 応用生物科学科3つのポリシー	・教育研究上の目的「生物の持っている優れた機能を活用して、環境、健康、資源、食糧などの社会の諸問題を解決し、人類の持続的発展を目指す国際的な人材の育成を目的としている」、ディプロマ・ポリシーとほぼ整合している。しかし、「国際的な人材」に対応するディプロマ・ポリシーの検討が必要である。ディプロマ・ポリシーは「態度」(知識・理解)(思考・判断)(関心・意欲)(技能・表現)と分割して明示されており、当該学位にふさわしい学習目標である。			
		15 デイプロマ・ポリシーには、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果が明示されているか。	・応用生物科学科3つのポリシー (https://www.toyo.ac.jp/nyushi/academics/learning/undergraduate/lsc/dabs/policy/)				
		16 カリキュラム・ポリシーを設定し、かつ公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	「全学部規程」 ・履修要覧 ・ホームページ	各学部、学科において、カリキュラム・ポリシーを定め、ホームページにて公表している。			
2)授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	17 カリキュラム・ポリシーには、教育課程の体系的な教育内容、科目区分、授業形態等を明示し、学科のカリキュラムを編成するうえで重要かつ具体的な方針が示されているか。	・応用生物科学科 教育目標 (http://www.toyo.ac.jp/site/dabs/) 『2017履修要覧』 p43,44 ・応用生物科学科 3つのポリシー (https://www.toyo.ac.jp/nyushi/academics/learning/undergraduate/lsc/dabs/policy/) ・応用生物科学科 教育課程表	・カリキュラム・ポリシーにある「生物が持っている優れた機能を活用」する能力を有する人材育成のため、本学の建学の精神を涵養する「基礎教養科目」「キャリア支援」、1年次の「基礎科目群」「応用生物科学序論」、2年次以上の「専門科目群」「コース」、4年次における「卒業研究」「卒業論文」等、教育内容、科目区分、授業形態が明示され、さらにカリキュラム編成上の重要な具体的な方針が示されている。カリキュラム・ポリシーには、生命科学に関する基礎知識、バイオテクノロジーに関する基礎技術や専門知識を身につけるための必修科目および選択必修科目を配置し、専門知識を系統的に学ぶことができるよう「応用動物コース」、「植物資源利用コース」、「微生物利用コース」、「生命環境コース」の4つのコースを設定していることが記載されており、編成方針、必修・選択の別、専門コースなどについて明示されている。カリキュラム・ポリシーは、教育目標及びディプロマ・ポリシーと対応関係があるように構築されており、整合している。	S	※1と同様	
		18 カリキュラム・ポリシーは、教育目標とディプロマ・ポリシーと整合しているか。					
3)教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	○各学部において適切に教育課程を編成するための措置 ・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性 ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系的な配慮 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法 ・授業科目の位置づけ(必修、選択等) ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定 (＜学士課程＞初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等)	19 教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	・応用生物科学科 カリキュラム (http://www.toyo.ac.jp/site/dabs/dabs-curriculum.html)	教育課程は授業の順次性に配慮し、教育課程表及びカリキュラムマップとして明示している。各授業科目の単位数及び時間数についても大学設置基準及び学則と整合している。	S	※1と同様	
		20 各授業科目の単位数及び時間数は、大学設置基準及び学則に則り適切に設定されているか。	・応用生物科学科 カリキュラムマップ 『2017履修要覧』 p45-60 ・応用生物科学科 教育課程表	教育課程は授業の順次性に配慮し、教育課程表及びカリキュラムマップとして明示している。各授業科目の単位数及び時間数についても大学設置基準及び学則と整合している。			
		21 授業科目の位置づけ(必修、選択等)に極端な偏りがなく、教育目標等を達成するうえで必要な授業科目がバランスよく編成されているか。	・応用生物科学科 カリキュラム (http://www.toyo.ac.jp/site/dabs/dabs-curriculum.html)	教育課程は授業の順次性に配慮し、教育課程表及びカリキュラムマップとして明示している。各授業科目の単位数及び時間数についても大学設置基準及び学則と整合している。			
		22 専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	・応用生物科学科 カリキュラム (http://www.toyo.ac.jp/site/dabs/dabs-curriculum.html)	初年次教育として、「基礎生物学」「基礎化学」を必修科目として配置し、さらに、「応用生物科学序論」では、各教員の専門分野について概説し、専門教育への導入を図っている。教養教育と専門教育の位置づけについては、教育課程表にて明示されており、卒業、履修の要件は適切に配置されている。カリキュラム・ポリシーにおいて述べられているように、「応用生物科学序論」を開講し、専門性を養うための4つのコースを配置しており、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている。			
		23 教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。卒業、履修の要件は適切にバランスよく設定されているか。	・応用生物科学科 教育課程表 ・応用生物科学科3つのポリシー (https://www.toyo.ac.jp/nyushi/academics/learning/undergraduate/lsc/dabs/policy/)				
		24 カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。					
		25 学科の人材養成の目的に即した、社会的及び職業的自立を図るために、キャリア教育等必要な教育を正課内に適切に配置しているか。また必要な正課外教育が適切に施されているか。	・応用生物科学科 カリキュラム ・『2017履修要覧』 p58,59 ・『2017履修要覧』 p69-87 (http://www.toyo.ac.jp/site/license.html) ・学長施策 生命科学部 体験学習プログラム ・「微生物同定実験の講習会」を開催 (https://www.toyo.ac.jp/site/dabs/334030.html) 2017年9月実施 ・工場見学会を開催 (https://www.toyo.ac.jp/site/dabs/334523.html) 2017年9月実施	共通教養科目として「キャリアデザインI(対象学年1年生)」「キャリアデザインII(対象学年2年生)」の科目を配置し、さらに3年次には「実務研修」を配置することで、効果的な学生キャリア教育を行っている。また、生命科学部学生支援プログラムとして、英語単位認定制度、LEAP、TGLプログラム、大学院開講科目履修制度などを設置している。さらに、教職課程(教育職員免許状)を設置、食品衛生管理者および食品衛生監視員、危険物取扱者、バイオ技術者、技術士・技術士補、公害防止管理者、胚培養士などの資格取得を支援するための正課内外の様々な指導や支援環境が整っている。			
26 教育目標に照らした諸資格の取得、その他必要な知識・技能を測る試験の受験に係る指導や支援環境が整っているか。							
27 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力の育成に向けて、学科内の学生への指導体制は適切であるか。また、学内の関係組織等の連携体制は明確に教職員で共有され、機能しているか。	・応用生物科学科 学科会議議事メモ ・就職・キャリア形成支援(板倉キャンパス) (http://www.toyo.ac.jp/site/career-itakura/) ・平成29年学長施策 生命科学部 体験学習プログラム 教育活動改革支援予算(実施計画書)	正課内の指導に加えて、学科会議などにおいて就職キャリア担当委員・実務研修担当委員から適切に情報提供がなされ、学科内の学生への指導体制は適切に保たれている。また、キャリア支援に関わる情報は、教職員間の連絡体制で密に共有されており、機能している。					
4)教育目標、学位授与方針及び教育課程編成実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。	○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表	28 教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を定期的に検証しているか。	『2017履修要覧』 p44 ・応用生物科学科3つのポリシー (https://www.toyo.ac.jp/nyushi/academics/learning/undergraduate/lsc/dabs/policy/)	・応用生物科学科の教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性については、学科会議において、毎年、高校生向けパンフレットの作成時に、議論・検証している。「アドミッション・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「ディプロマ・ポリシー」については、学科会議において意見集約、原案作成、改訂を行い、本学の履修要覧や入試情報サイトなどで公開している。変更等があれば学部教授会で報告され、承認を受けるというプロセスになっている。	S	※1と同様	
		29 教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限・手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善に繋げているか。	・生命科学部オシナルパンフレット (https://www.toyo.ac.jp/site/lsc/pamphlet-lsc.html) ・学科会議議事録				

(4) 教育課程・学習成果

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期		
5) 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	<p>○各学部において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置</p> <p>・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置(1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等)</p> <p>・シラバス内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)及び実施(授業内容とシラバスとの整合性の確保等)</p> <p>・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法</p> <p><学士課程></p> <p>・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数</p> <p>・適切な履修指導の実施</p>	30	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学生等も含む)。	・履修要覧	全学部・学科において、1年間の履修登録科目の上限を、50単位未満に設定し、学部規程に規定している(卒業要件外の科目を除く)。	※1と同様			
		31	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・シラバスの作成依頼 ・シラバスの点検資料、点検結果報告書 ・「授業評価アンケート」資料	シラバスについては、毎年、学長及び教務部長の連名においてシラバス作成の際の必須事項、留意事項を明示するとともに、各学部による全科目のシラバス点検を実施し、必須事項の明示や内容の充実に向けて取り組んでいる。また全学統一の授業評価アンケートにおいて、「シラバスに即した内容の授業が行われていたと思いますか」という設問を用意し、授業内容・方法とシラバスとの整合性を確認している。				
		32	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。						
		33	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、施設・設備の利用など)を行っているか。	・4月 ガイダンス日程表 ・開設コース 配布資料	演習や実験形式の授業を行うにあたって、履修者数に配慮した開設コース数を設置している。開設コースについては4月のガイダンスなどで学生に周知している。		S		
		34	履修指導の機会、オフィスアワーなど、学生が学修に係る相談を受けやすい環境が整っているか。また、その指導体制は適切であるか。	・オフィスアワー ・ラーニングサポートセンター	オフィスアワーは、ToyoNet-G(学務システム)のシラバス「教員プロフィール」に記載されているほか、各教員の部屋の前に掲示されている。その他、学修に係る相談については、『ラーニングサポートセンター』を設置している。		S		
		35	学生の学習を活性化し、教育の質的転換を実現するために、学科が主体的かつ組織的に取り組んでいるか。	・平成29年学長施策 生命科学部 体験学習プログラム 教育活動改革支援予算(実施計画書) ・2017年度 履修要覧	2017年からの新カリキュラムでは、「野外体験実習」や「微生物学体験実習」などの体験学習を新規に配置することとした。また、カリキュラム・ポリシーに記載した「生物の機能を活用できる専門家を育成する」ための教育効果を期待し、項目25-27に記載した平成29年度 学長施策 生命科学部 体験学習プログラムを実施し、学習の活性化を図っている。		S		
36	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。								
6) 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	<p>○成績評価及び単位認定を適切に行うための措置</p> <p>・単位制度の趣旨に基づく単位認定</p> <p>・既修得単位の適切な認定</p> <p>・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置</p> <p>・卒業・修了要件の明示</p> <p>・学位授与に係る責任体制及び手続の明示</p> <p>・適切な学位授与</p>	37	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。		シラバスについては、毎年、学長及び教務部長の連名においてシラバス作成の際の必須事項、留意事項を明示するとともに、各学部によるシラバス点検を実施し、必須事項の明示や内容の充実に向けて取り組んでいる。また全学統一の授業評価アンケートにおいて、「シラバスに即した内容の授業が行われていたと思いますか」という設問を用意し、授業内容・方法とシラバスとの整合性を確認している。	※1と同様			
		38	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学生を除く)。	・東洋大学学則	学則において60単位まで認定できることを定めており、各学部教授会で審議の上で単位認定を行っている。				
		39	成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置を取っているか。	・シラバス点検用チェックリスト	例年、シラバスの相互点検により、学修到達目標の適切な設定や成績評価について、教員間で確認しており、本年度も同様な点検が行われる予定である。実験実習科目においては、担当者間において、成績状況を把握し、評価基準の調整を図っている。		A	評価の極端な偏りに配慮するため成績状況を複数の教員間で把握する試みは、一部の科目にとどまっており、こうした調整を科目全体で行うかどうか等、今後学科会議などで検討する必要がある。	2017年度中
		40	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知ろうとしているか。	・履修要覧	卒業要件は、学部規程に規定し、履修要覧にて全学生に明示している。また、新入生には履修ガイダンスと併せて、履修指導を行っており、卒業要件については十分に説明している。			※1と同様	
		41	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。						
		42	学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。	・『2017履修要覧』 p.45-60 ・応用生物科学科3つのポリシー (https://www.toyo.ac.jp/nyushi/academics/learning/undergraduate/lsc/dabs/policy/) ・生命科学部教授会議事録	卒業要件の内容は、学科のディプロマ・ポリシーの「(知識・理解)(2)生命科学とその応用に関する幅広い専門知識を有する。(3)専門知識を社会に還元するための実践的能力を有する。(思考・判断)(4)生命科学の知識や技術を活かし、環境、健康、資源、食糧などの人類社会の諸問題を解決するための課題探求能力および問題解決能力を有する。(関心・意欲)(5)人類社会の諸問題に関心をもち、これら問題の解決のため生命科学の知識や技術を活かす意欲がある。(技能・表現)(6)物事を多面的かつ論理的に考察し、その内容を的確に情報発信し、他者とのコミュニケーションを通じて、より良い社会の構築に貢献する能力を有する。」などの内容を判定するものになっている。したがって、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているといえる。 学位を授与するために、3月の教授会で卒業要件を満たしたかどうかを確認し、学位授与の判定を行っている。		S		

(4) 教育課程・学習成果

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期
7) 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	<p>○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定</p> <p>○学習成果を把握及び評価するための方法の開発</p> <p>《学習成果の測定方法例》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 	43	【学科/学位レベル】 各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するために、学科として、学習成果を測るための評価指標(評価方法)を開発・運用しているか。	<p>【学部・学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業評価アンケートについて」 ・「授業評価アンケート結果」 ・「授業評価アンケート結果に対する改善方針の提出について」 ・東洋大学卒業生アンケート 	B	授業評価アンケートや学生生活アンケートは適切に運用されているが、学生の学習成果をはかることのできるその他の指標について継続して検討する。	新カリキュラム開始時までの改善を目標とする。
		44	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施し、かつ活用しているか。				
8) 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	<p>○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価</p> <p>○学習成果の測定結果の適切な活用</p> <p>○点検・評価結果に基づく改善・向上</p>	45	カリキュラム(教育課程・教育方法)の適切性を検証するために、定期的に点検・評価を実施しているか。また、何に基づき(資料、情報などの根拠)点検・評価しているか。	<p>・学科会議事録</p>	A	本年度は、新カリキュラムの輪講科目における教育方法などについて、学科会議で議論する予定である。	2017年度中
		46	上記の点検・評価結果をカリキュラムの改善に役立てているか。(また、どのように役立てているか。具体例をもとに記載してください)				
		47	授業内容・方法の工夫、改善に向けて、学内(高等教育推進センター)、学外のFDに係る研修会や機関などの取り組みを活用し、組織的かつ積極的に取り組んでいるか。	<p>・教授会議事録</p>	平成29年度「FD推進ワークショップ(専任教員向け)」(6月、日本橋、日本私立大学連盟)に教員2名が参加したほか、運営員として教員1名が参加した。平成29年度「FD推進ワークショップ(新任専任教員向け)」(8月、浜松市、日本私立大学連盟)に教員1名が参加したほか、運営員として教員1名が参加した。	S	

(5)学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	<p>○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表</p> <p>○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前の学習履歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法 	48 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・ホームページ	各学部、学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。	S	※1と同様	
		49 アドミッション・ポリシーには、入学前の学習履歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示しているか。	・「応用生物科学科 アドミッション・ポリシー」 ・生命科学部履修要覧 2017 p44 ・ http://www.toyo.ac.jp/site/lsc/lsc-policy.html	応用生物科学科は、「未来を拓くバイオ」をスローガンに、生物の持っているさまざまな働きを利用して、環境、健康、資源、食糧などの社会問題の解決に貢献できる行動力のある人材の育成を目指している。このため、次のような学生を受け入れたいと考え、アドミッション・ポリシーとして、以下の4項目を明示している。 【1.知識・理解の程度】高等学校で履修する理科(化学・生物)、外国語、数学などについて、高等学校卒業相当の知識を有している。 【2.思考・判断・技能・表現能力】自分が学習した内容を確に表現し、伝えることができる。 【3.関心・意欲】環境、健康、資源、食糧などの諸問題に関心を持ち、これら問題の解決のため社会に貢献する意欲がある。 【4.態度】対話などにより他者との相互理解に努め、自ら学び行動する態度を有する。			
		50 受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・ホームページ	全学部・全学科において、大学ホームページにて公表している。			
2) 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	<p>○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学選抜制度の適切な設定</p> <p>○入試委員会等、責任所在を明確にした入学選抜実施のための体制の適切な整備</p> <p>○公正な入学選抜の実施</p> <p>○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学選抜の実施</p>	51 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	・2018年度 東洋大学入学情報 ・ http://www.toyo.ac.jp/nyushi/	・一般入試では、「広範囲の学問領域に対して柔軟かつ広角的な思考力を有する人材を受け入れる」という方針に則り、理系・文系にとらわれない形で複数の選抜試験を実施し、また、推薦入試では、学習意欲ならびに明確な目的意識をもち、コミュニケーション能力や倫理観を有する人物を採用するという方針に則り、小論文および面接を課す試験方法を設定している。 ・入試方式や募集人員、選考方法は、おおむねアドミッション・ポリシーに従って設定している。	A		
		52 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	・ http://www.toyo.ac.jp/nyushi/admission/requirements/				
		53 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	・入学試験実施本部体制	学長を本部長とした「東洋大学入学試験実施本部」の下、「入学試験実施管理本部」等の体制を構築して入学試験を適切に実施している。			
		54 学生募集、入学選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。また責任所在を明確にしているか。		学長を本部長とした「東洋大学入学試験実施本部」の下、「入学試験実施管理本部」等の体制において、障がいのある受験生からの申告を受ける環境を整えており、その後受験時には、障がいの状況に応じた試験環境(時間延長、支援者の介添、点字対応、特別試験教室の用意など)を整えるなど、公平な受験機会を確保している。			
		55 入学選抜を行ううえで、障がいのある受験生に対し、障がいのない学生と公平に判定するための機会を提供しているか。					
3) 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	<p>○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理</p> <p><学士課程></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学定員に対する入学学生数比率 ・編入学定員に対する編入学学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 <p>・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応</p>	56 学科における過去5年の入学定員に対する入学学生数比率の平均が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。			S	※1と同様	
		57 学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。					
		58 編入学定員を設けている場合、編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。					
		59 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。					
60 定員超過または未充足について、原因調査と改善方針の立案を行っているか。	・「生命科学部 入試委員会議事録」 ・「生命科学部 教授会議事録」 ・東洋大学 平成29年度 入学学生数 ・東洋大学 平成29年度 学生数 ・東洋大学 平成29年度 収容定員比率	・生命科学部入試委員会において、毎年、前年度の入学学生数策定の分析を行い、生命科学部教授会に報告し、議論している。なお、平成29年度においては、入学定員に対し0.98倍、また収容定員に対し1.08倍となっており、いずれも適正状態となっている。					
4) 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	<p>○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価</p> <p>○点検・評価結果に基づく改善・向上</p>	61 アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	・なし	4年に1回のカリキュラム改訂の際に、各学部・学科の3つのポリシーも見直すこととしている。	A	※1と同様	
		62 学生募集および入学選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的なその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・なし	年間を通して入試部が現状を分析し、翌年度入試に向けた検討事項を各学部提案している。これに基づき、各学科入試委員を中心とした各学部入試委員会で検討を行い、その検討結果を集約した上で、学長ならびに各学部長を主たる構成員とする全学入試委員会で年2回の検討・決定を行っており、定期的な検証を行っている。			
		63 学生の受け入れの適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・「応用生物科学科 学科会議事録」 ・「生命科学部 教授会議事録」 ・「全学 入試委員会議事録」	入試部からの提案事項の検討および原案の作成にあたっては、学科内入試委員会で原案を作成し、学科会議で審議している。その結果を受けて、学部入試委員会において審議・調整を行い、最終的に学部教授会で審議承認している。その結果を受けて、全学入試委員会で最終的に検討・決定を行っており、責任主体・組織、権限、手続きは明確にされている。 また、その検証プロセスの適切な機能・改善のために、学科内教務委員会が独立して行っている学生各員の学年毎の成績を追跡調査結果を基に、各入試方式におけるアドミッション・ポリシーとの整合性や募集人員数の妥当性などについて議論を行っている。 追跡調査の結果、推薦入試、一般入試の各試験による入学の年度毎の成績に大きな変動が見られないことから、平成30年度入試においては、一般入試および推薦入試の募集人数は基本的には前年度から変更しなかった。ただし、国際化に対応するために、日本留学試験利用入試を拡大(2月にも実施)したほか、また、受験機会の複数を図るという入試部からの方針に従い、新たに2/1, 2/9に一般前期3教科均等配点型を、また、2/9, 2/10に一般前期3教科型理科重視型入試を、それぞれ導入した。それらに従って、各入試方式の受け入れ人数を修正した。また、受験可能科目についても見直しを行い、試験科目「理科」については、物理も選択可能とした。			

(6)教員・教員組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1)大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	<p>○大学として求める教員像の設定 ・各学位課程における専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等 ○各学部等の教員組織の編制に関する方針 (各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等)の適切な明示</p>	64 教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・「教員採用の基本方針」 ・「教員資格審査基準」	全学の「教員採用の基本方針」及び「教員資格審査基準」を定めるとともに、各学部で、学長との協議の上、内規等を定めて基準を明確にしている。	A	※1と同様	
		65 組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	なし	全学委員会のほか、学部内に各種委員会を設置して、組織的な連携体制と、責任の所在を明確にしている。			
		66 学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。			・教員組織の編成方針は応用生物科学科として定めていないが、教員採用やカリキュラム改訂等の際に、生命科学部教授会や学科会議、資格審査委員会等で議論している。今年度からスタートする新カリキュラムに対応するよう、昨年度、コース毎に配置される教員人数や専門分野の配置を考慮した教員構成を議論して調整を行なった。現在、学科の目的が実現されるように教員組織の編成となっているが、本項目については今後とも議論していく。	・将来構想委員会などで、次期カリキュラム改定を見据えた教員組織の編成方針について議論する必要がある。これに基づいて学科における教員の編成方針を定めている。	
		67 学部、各学科の個性、特色を発揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	生命科学部 教授会議事録 ・応用生物科学科 学科会議議事メモ				
		68 各教員の役割、教員間の連携のあり方、教育研究に係る責任所在について、規程や方針等で明確にされているか。					
2)教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	<p>○大学全体及び学部等ごとの専任教員数 ○適切な教員組織編制のための措置 ○教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授又は助教)の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置 ○学士課程における教養教育の運営体制</p>	69 学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・教員組織表	充足結果については、学長と各学部長による「教員人事ヒアリング」を実施し、学部より学長に報告を行っている。	B	※1と同様	
		70 学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。					
		71 学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	生命科学部 教授会議事録 ・応用生物科学科 学科会議議事メモ				
		72 教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。					
		73 専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	なし			専任・非常勤を問わず、資格審査委員会及び教授会の審議の際には、担当予定科目を明示した上で担当予定科目に関連する教歴、研究業績を基に審査することを前提としている。	
3)教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	<p>○教員の職位(教授、准教授、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続の設定と規程の整備 ○規程に沿った教員の募集、採用、昇任等の実施</p>	74 教員の募集・採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	・「職員の任免及び職務規則」 ・「教員資格審査委員会規程」 ・「教員人事補充事務手続き概略フロー」 ・「大学専任教員採用の理事長面接の流れ」	「職員の任免及び職務規則」及び「教員資格審査委員会規程」に手続きは明確にされている。また、プロセスについても「教員人事補充事務手続き概略フロー」及び「大学専任教員採用の理事長面接の流れ」に明示されている。毎年度末に、学長と各学部長による「教員人事ヒアリング」を実施し、当該年度の結果と次年度以降の計画を確認することで、各学部の人事が、適切に行われるようにしている。	A	※1と同様	
		75 教員の募集・採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。					
4)ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	<p>○ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動の組織的な実施 ○教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価とその結果の活用</p>	76 研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	・新任教員事前研修資料 ・学外FD関連研修会案内 ・海外・国内特別研究員規程、件数 ・教員活動評価資料	高等教育推進センター主催による新任教員に対する研修会の実施や、専任教員の学外研修会への参加支援、また海外・国内の特別研究制度により、教員の資質の向上を図るとともに、平成28年度より「教員活動評価」制度を導入し、教員の教育・研究活動を中心とした自己点検・評価を実施している。	C		
		77 教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。					
78 教員活動評価等、教員の教育・研究・社会貢献活動の検証結果を有効に活用し、教員組織の活性化に繋げているか。			・教員活動評価資料 ・ホームページ				
5)教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	<p>○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上</p>	79 教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	・生命科学部 教授会議事録 ・応用生物科学科 学科会議議事メモ ・資格審査委員会フロー図	・教員採用の際に、資格審査委員会、教員採用委員会、生命科学部教授会や学科会議において、年齢構成や教員組織の編成方針などについて議論している。 ・平成29年度の教員採用に伴い、資格審査委員会と教授会での審議・承認プロセスを確認するためのフロー図を作成し、教員に周知した。	A		

(11)その他

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方針	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	80	教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	『2017履修要覧』 p.44,58	カリキュラム・ポリシーに本学の建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」を明示するとともに哲学教育の推進のため、「基盤教育科目」に必修分野として「哲学・思想」区分を設け、その中に「井上円了と東洋大学」、「哲学入門」のほか、「生命論」、「生命倫理」、「生命哲学」という科目を配している。また、「専門科目」の選択必修「専門共通」の分野に「技術倫理」という科目を配している。	A	
	国際化	81	教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	『2017履修要覧』 p.44, 58 教育課程表	国際化推進のために、全学部生を対象として4月にTOEIC-IPテストを受験させるほか、必修科目として「Integral English I・II・III・IV」、「English Communication I・II」、選択科目として「TOEIC Foundation」、「Applied English I・II」、留学支援科目「英語特別教育科目」中に6科目を配置するとともに、専門分野に関わる英語能力の向上のために、「ライフサイエンス英語」を配置している。また、これらの科目以外にも、「板倉キャンパス 英会話講座」、「海外英語研修プログラム in Canada」、「異文化コミュニケーション」を開催している。これらの英語教育以外にも、「中国語 I・II」、「ハンガール I・II」、「フランス語 I・II」、「スペイン語 I・II」を開講することにより、文化間コミュニケーション能力の向上に努めている。	A	
	キャリア教育	82	教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	『2017履修要覧』 p.44,58 教育課程表 ホームページ 板倉キャンパスガイドブック2017	キャリア形成を支援するための科目として「キャリアデザイン I (1年生対象)・II (2年生対象)」を配置したほか、将来の目標を見つけ、学習意欲やモチベーションを向上させるために新たに「応用生物科学序論」を1年生を対象として開講している。また、3年生においては、実社会での活動体験を積ませるべく「実務研修」を正規科目として配置した。また、資格取得についても、学生に対し積極的に奨励しており、公害防止管理者資格取得のための集中講義を夏期に開催し、H28年度は10名が資格を取得した。また、技術士第一次試験(上下水道部門または生物工學部門)に16名合格した。胚培養士の資格取得支援として、OB・OGを招いてのセミナー、生殖補助医療機関の見学、生殖補助医療機関から講師を招いての特別講義を開催した。また、中高における教職取得のための講義を実施している。その他、環境関係、バイオ関係などの学科における専門科目に関連した資格の取得については、各専任教員がそれぞれの専門科目内で、あるいは、各研究室に所属した4年生に対して個別に指導を行っている。	S	
2) 学部・学科独自の評価項目①	自主性	83	教育・研究活動の中で自主性の涵養を推進しているか。	「微生物同定実験の講習会」を開催 (https://www.toyo.ac.jp/site/dabs/334030.html)	自主的・主体的に考える力を持った人材は、従来のような知識の伝達を中心とした教育では育成することが困難であり、実践的、行動的な体験学習が必要である。このような体験学習の一環として、微生物研究や食品衛生管理などに興味がある学生を対象として、2017年度に、「微生物の同定試験」に関する体験学習の実施を予定している(2017年9月実施)。	A	2017年度からの新カリキュラムにおけるバイオテクノロジー実験(1年生対象)に本内容を加えることにした。
3) 学部・学科独自の評価項目②	論理的思考能力・プレゼンテーション能力	84	教育・研究活動の中で論理的思考能力・プレゼンテーション能力の涵養を推進しているか。	「生命科学部 教授会議事録」	学生の論理的思考能力、プレゼンテーション能力などを養うために、学部3年生(仮配属した学生)や学部4年生を対象に国内外で開催される学会での発表や参加の促進を図っている。学会発表等については、毎年多くの学生が積極的に参加・発表しており、また低学年の学生の間でも、本制度への関心が高まっており、今後より多くの学生が積極的に学会活動に参加することが予想される。	A	ホームページなどを通じて、本制度についての広報活動を積極的に進めることにより、より多くの学生が学会参加や発表を通じて、論理的思考能力・プレゼンテーション能力を養うことができるようにしていく。